

特集 1 ペット同行避難の現状と課題について



東京都獣医師会 事務局長
／NPO 法人 ANICE 理事長
平井潤子

豪雨災害への備え

地震大国と異名を持つ日本周辺には約 2,000 もの活断層があり※1、「首都直下地震」や「南海トラフ三連動地震」などの大規模地震がいつ発生してもおかしくない、という状況であることから、「災害対策」といえば主に地震に対する検討が重ねられてきました。

※1「日本の活断層」 地震調査研究推進本部(文部科学省研究開発局地震・防災研究課)
<https://www.jishin.go.jp/main/pamphlet/katsudanso/Chap2.pdf>

しかし、地球温暖化の影響により、ここ数年は台風が日本列島を直撃・縦断するようになりました。「想定を超える雨量」という表現とともに毎年のように全国各地に被害が生じるようになったことで、豪雨災害への備えの必要性が問われるようになってきています。ここでは、主に豪雨災害でのペット同行避難とその課題について述べたいと思います。

続く豪雨災害や、令和元年台風第 19 号等による全国的な被害を踏まえ、令和 3 年 5 月、内閣府は住民が判断に迷わず速やかに避難できるように、「避難勧告」という言葉を廃止し、「避難指示」を発令することに改定しました。住民がただちに避難行動に移れるよう災害対策基本法の改正と「避難勧告等に関するガイドライン」※2の見直しを行いました。

※2「避難情報に関するガイドラインの改定（令和 3 年 5 月）」

内閣府政策統括官（防災担当）

http://www.bousai.go.jp/oukyu/hinanjouhou/r3_hinanjouhou_guideline/

「避難」の違いを知る

ここで注目していただきたいことは、災害（被害）の種類によって避難の方法が変わる点です。

台風などによる豪雨災害が予想されている際に、被害に遭わないように避難指示による避難行動をとるタイミングは、原則として被害が出る前です。

一方で、地震や堤防決壊、土砂災害等のように、突発的に生じ、住居に被害が生じた際に避難する場合は、避難の方法や準備、そして避難所での交渉のポイントが変わります。

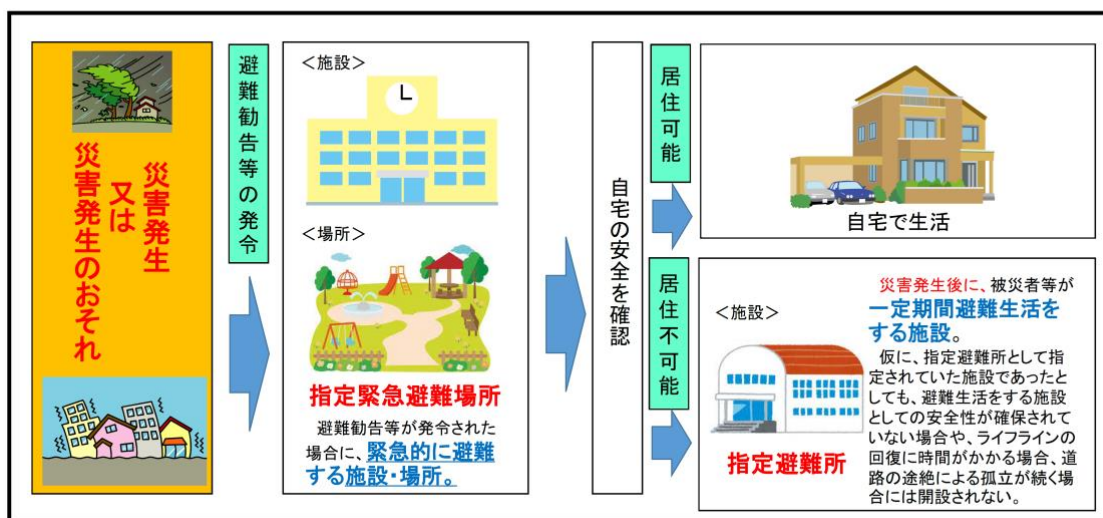
※3

※3「避難所について」2頁図参照

内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（被災者行政担当）による解説

<http://www.bousai.go.jp/taisaku/kyuujo/pdf/h30kaigi/siry05.pdf>

指定緊急避難場所と指定避難所の違い



2

図1 「避難所について」2頁 内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（被災者行政担当）による解説

災害前の避難は短期

雨の被害に関しては、天気予報による日時予想や、ハザードマップによる被害想定ができますので、少なくとも人命やペットの命を守るために、あらかじめ準備をし、雨がひどくなる前、そして暗くなる前に落ち着いて行動することができます。

また、大きな被害が生じなかった場合には、台風や前線が通過し、避難指示が解除されれば、安全を確認しながら帰宅することができますので、短ければ1晩、長くても2～3日で避難が終了します。

たとえば被害が生じる前に避難する「指定緊急避難場所」（自主避難所）で、ペットの受入れを拒まれた場合や、暴風雨の中、ペットを屋外に置くように指示があった場合はどうしたらよいでしょうか。

風雨がしのげる駐車場、駐輪場、建物の昇降口など、他の避難者の避難場所とは別の場所にペットスペースを設け、飼い主もペットスペースと一緒に居ることで、ペットが吠えたり、他人に迷惑をかけたりしないよう、常に飼い主が管理することを条件とし、「長くても1晩である。危険な自宅（場所）に戻るわけにはいかないの、受入れを検討してほしい」と交渉しましょう。

さらには、避難所運営側へ行動で示し、理解を求めることも必要です。たとえば建物内が汚れないように飼い主同士が持ち寄ったブルーシートを床に敷くほか、排泄物で汚れないように壁に立ち上げたり、他の避難者から見えないように吊り下げて仕切ったりすることで、ペットが避難所で他者に迷惑をかけないように飼い主が努力していることを示すことが理解に繋がります。

また、飼い主同士が協力することで、その場を離れる際にお互いのペットの様子をみたり、体調が悪くなった飼い主や高齢者の代わりにペットを管理したりすることもできます。そして大切なポイントは、避難所から退去する際に、飼い主たちが協力して片付けや清掃・消毒を行い、避難所運営者に確認を得て退去することです。過去の豪雨災害では、避難所側の好意で室内にペット飼育スペースを設置したものの、何人かの飼い主はいつの間にか退去し、後には汚れたブルーシートや排泄の跡、足跡、抜け毛等が散乱したまま残っていて、後片付けは避難所側で対応した、という報告がありました。そのため「再びペット同行避難を頼まれても、受け入れるのを躊躇する」といった残念な結果となってしまいました。

そのようなことがないように、その場に掃除道具や消毒の資材がない場合は、「いったん帰宅した後に飼い主同士が申し合わせ、再度道具を持参して参集し清掃します」という旨を避難所運営者に伝え、その場に「〇月〇日〇時に清掃に来ます。飼い主一同」といった張り紙を掲示しておくことで、同行避難に対する避難所側の不安を払拭することができます。

【自主避難のポイント】

- 雨の避難は早めに動く（ひどくなる前・暗くなる前）
- 天気予報・ハザードマップをこまめに確認
- 自主避難所に行く場合はブルーシートやビニール紐、ガムテープ等も持参し避難交渉
- 立つ鳥跡を濁さず！飼い主同士が協力して清掃・消毒して退去
- 清掃・消毒の手順や使用する薬剤は、かかりつけの動物病院や地元獣医師会がアドバイス

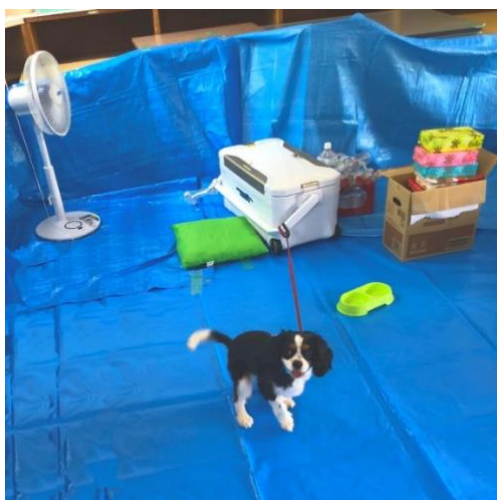


写真1 2018年西日本豪雨災害 真備町 学校避難所

教室にブルーシートを敷き詰め養生し、汚れ対策をして避難している



写真2 2018年西日本豪雨災害 真備町 学校避難所

暑さに弱い短頭種犬は、避難当時、酷暑の屋外で暑さのため眠れない日が過ごしていたが、屋内の避難所に移動してからようやく熟睡することができた。

被災して避難をする場合は長期

前述の避難に対し、住居に被害が生じた際には、仮設住宅の提供まで、みなし仮設住宅の場合は短くても2週間程度、仮設住宅を新設する場合には、用地確保から建設まで数カ月かかってしまいます。

大規模で広範囲な被害が生じた東日本大震災では、避難所閉鎖まで岩手県で7カ月、宮城県で9カ月、福島第一原発の事故で多くの住民が避難した県外（埼玉県）避難所の閉鎖までには2年9カ月を要していますから、今後、南海トラフ三連動地震や首都直下地震、豪雨災害による越水や堤防決壊など甚大な被害を想定して備えるのであれば、突然であっても素早く避難行動がとれるように、長期避難を視野に対策を検討し、物や事を備えておくことが必要です。

長期間の避難生活は飼い主の精神面、健康面に大きく負荷がかかりますし、ペットを同行して避難生活を送る場合は、ペットの健康や飼育環境に配慮することも必要です。

避難所で生活することが困難な猫や、特殊な飼育環境が必要なエキゾチックペットについては、避難所以外の避難場所に移動することを検討してください。これは、いったん避難所で安全を確保し、次のステージに移るまでの何日かを避難所で過ごし、行先が決まり次第、避難所以外の預け先や避難先に移動する、という段階避難です。

「平成30年7月豪雨災害」では、避難所が閉鎖され、仮設住宅に移行する段階で、ペット飼養可のみなし仮設住宅が用意されておらず、「ペットと同行避難したものの、ペットと一緒に住める仮設住宅がないので身動きがとれない」という避難所の飼い主からの相談がありました。

もちろん自治体が提供する施設でペットと共に暮らせることが理想ではありますが、飼い主としてペットを預かってもらえる協力者（場所）を複数見つけておくことも、危機管理の一つだといえるでしょう。



2019 台風 19 号 長野市 北部スポーツレクリエーションパーク体育館避難所
ペット用の物資を搬入する長野県職員とボランティア

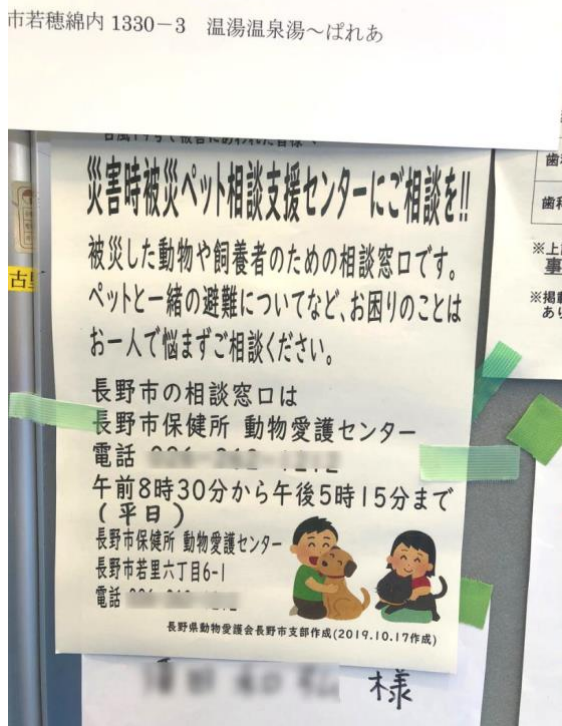


写真 4 2019 年台風 19 号 長野県須坂市と長野市写真 4

2019 台風 19 号 長野市 北部スポーツレクリエーションパーク体育館避難所
避難所の掲示板には、支援情報が掲示されるため、掲示板はこまめに確認してほしい

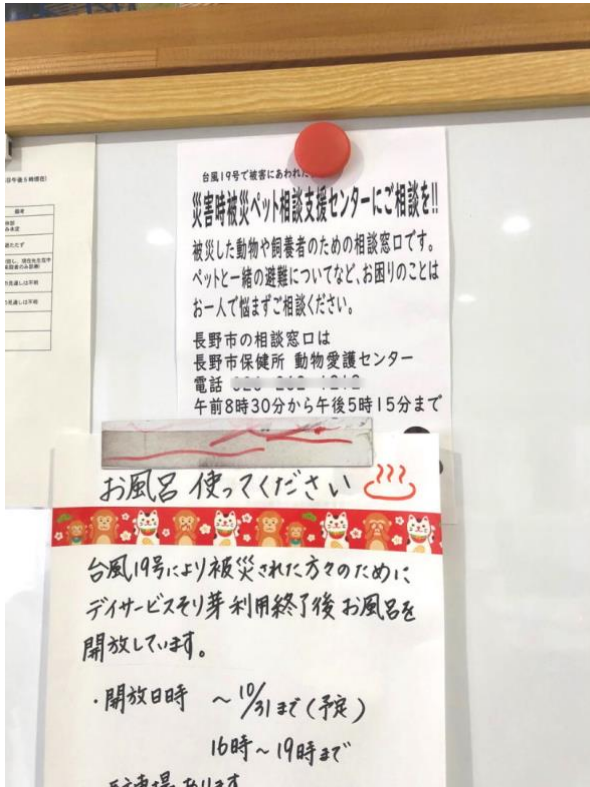


写真5 2019 台風 19 号 長野市 北部スポーツレクリエーションパーク管理棟

ペットの支援情報に重ねて入浴支援の情報ポスターが貼られる

避難所の掲示板は様々な情報が混在し、新しいポスターが上から貼られ下の情報は隠されていくこともあるため、ペット専用掲示板を設け、避難飼い主は1日1回は確認する仕組みづくりを勧める

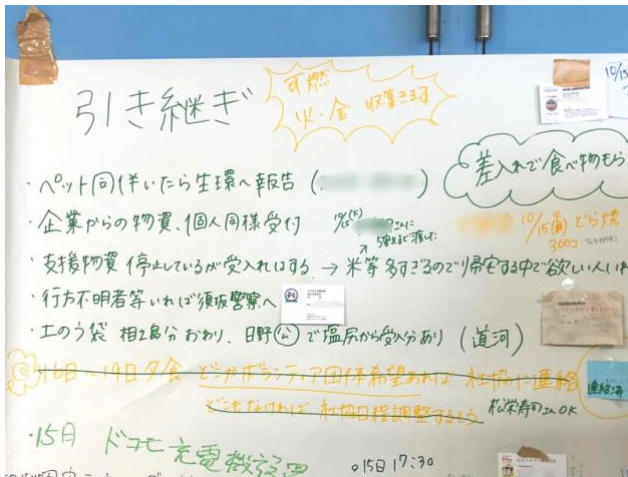


写真6 2019 台風 19 号 長野県須坂市北部体育館避難所

避難所の責任者は数日おきに交替したり、常駐していない場合もある。

写真のようにペットに関する引継ぎが明示されている避難所は稀で、避難所内のペット関連情報を集約する手段の確保が課題となっている

立ちはだかる「新型コロナウイルス感染症」

令和2年、パンデミックを引き起こした新型コロナウイルス感染症は、日常生活だけでなく、災害発生時の避難にも大きな影響を与えています。

令和2年7月、特に被害が大きかった「九州豪雨（熊本豪雨）」の被災地では、三密対策の必要性からペットの受け入れができなかったというケースが報告されました。三密対策や感染者の避難受け入れにより、避難所内のスペース配分に制約が生じ、受け入れ人数が制限される可能性もあるので、飼い主は避難所以外の避難先を平時に複数確保するなど、「分散避難」の準備をしておくことが大切です。

また、自宅がマンションなどの堅固な建物で安全であるなら、自宅（在宅）避難は、飼い主にとって新型コロナ感染対策でもあり、ペットにとっても負荷がかからないという利点があります。

小さなキャリーバッグの中で長期間避難生活を送れない猫の飼い主や、ペットを複数頭飼育している人、大型犬を飼っている人にとって、避難所に入れなかった場合に備え、自宅避難を想定した準備も必要になります。

先に述べたように、豪雨災害に対する自主避難は、避難指示解除までの短時間の避難ですむ場合もありますから、自宅避難できない場合は、安全な場所にある知人宅や犬の飼い主仲間、実家や親類宅に一晩避難したり、ペットだけ動物病院などに預け、飼い主はホテルに宿泊避難する、車で高台や大規模商業施設の立体駐車場の上階に避難するといった「分散避難」策を複数準備しておきます。

生命を守る行動をとるために、エコノミークラス症候群や熱中症、浸水の対策をしながら、被害が大きくなる前（かつ暗くなる前）に、高台や安全な場所に移動した上での短時間の「車避難」も避難方法の一つとなっています。

どんな災害においても、飼い主の臨機応変な判断力と行動力が必要になりますが、天気予報で予測できる災害は、落ち着いて避難の準備をし、行動することが可能です。ペットとの避難を考える際に、地震災害以外の避難や、被害が生じる前の自主避難や自宅避難、そして住居が被災し、長期間に避難生活を送らねばならない避難生活について、それぞれ状況を具体的にシミュレーションすることで、何が必要か、どのような対策が有効かを考え、備えていただければと思います。

【コロナ禍での避難のポイント】

- 避難所に避難しない（自宅避難・分散避難）
- 短時間の避難であれば、対策を講じて車避難（エコノミークラス症候群・熱中症）
- ペットを安全な場所に預け飼い主は避難所や宿泊施設へ（分離避難）
- 避難先を複数確保し同行避難（知人宅、実家、勤務先、ペット宿泊可のホテル等）
- 断水に備え衛生対策用品も準備（アルコール消毒薬・洗浄シート・簡易トイレ）

※「新型コロナウイルス感染症対策に配慮した避難所運営のポイントについて」（令和 3 年 6 月）内閣府政策統括官（防災担当）

http://www.bousai.go.jp/pdf/hinanjyo_covid19_01.pdf

「避難所における新型コロナウイルス感染症対策 関連情報」

内閣府政策統括官（防災担当）<http://www.bousai.go.jp/>

※「避難所における 新型コロナウイルス感染症 対策ガイドライン」

東京都福祉保健局

https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/joho/soshiki/syoushi/syoushi/hinanjo-guideline_COVID-19.files/honbun20200701.pdf